



せせらぎ

令和4年4月28日
清瀬市立清瀬第四小学校
5月号
家庭数配布

ホーホケキョ あいさつひろがる せせらぎと

校長 長沼正城

今、校長室でこの原稿を書いています。校庭の向こうから「ホーホケキョ・・・」が、休む間もなく響いてきます。朝は小川のせせらぎ、昼は林から鶯の鳴き声。なんと贅沢で自然豊かな天地でしょうか。この「当たり前」を子供たちにも感じてほしいと思い、先日の全校放送朝会でこの俳句を紹介しました。「鶯の声遠き日も暮れにけり」（与謝蕪村）

（鶯の美しい鳴き声に耳を澄ましていると…、時間の経つのも忘れてのんびりしてくるなあ…、あっ、そろそろ日が暮れてきた…、もう帰らなくちゃ…。）という与謝蕪村のつぶやきが聞こえてきそうです。

聞くところによると、鶯はすぐにはあのきれいな「ホーホケキョ」とは鳴けないそうです。鶯にも鳴き声がかうまく出せない鳥がいるそうです。だから何度も練習するそうです。そうやって美しい声を響かせることができる、というのです。なんとも教訓に満ちています。私たちも「繰り返し」の大切さを見直さなければとふと思います。「ホーホケキョ」は鶯たちにとっては、欠かせない声の響き。まさに鶯どろしの「つながり」の象徴（シンボル）なのでしょう。あいさつ代わりに歌声のような響き。小鳥にもプライドがあり、美しく鳴くことに自信をもって生きている、そんな思いがしてきました。

さて、そう考えると、私たち人間もどうかかしてられません。四小っ子は、ダイヤモンドの原石です。これから月々日々磨きをかけて人間性を豊かにしていかなければなりません。その根幹は「人を大切にできる力」です。「自分も相手も」。人は一人では生きていけないのですから…。「人を大切に、人とつながる」必須アイテム…、それはふだん「当たり前」に交わす「あいさつ」と言えるでしょうか。「あいさつ」は生きる知恵と言ってもいいでしょう。人間に限らず、小鳥だってそうなのですから…。

ある3年生は、このような「あいさつ標語」をつくってくれました。

●あいさつは 友だちとなかよくなれる まほうの言葉

またある4年生は、

●あいさつは 心のとびらを あけるかぎ

5年生6年生は、すてきな言葉で標語をつくってくれています。次号で紹介したいと思います。

そう言えば、四小には大事な仲間がいました。にわとり小屋の“おもち”です。朝は、“おもち”からも「コケッコー、（おはよう!）」と元気もらっています。ありがたいことです。“四小っ子”にとっては、「当たり前」の日常かもしれませんが、“自然の声”に恵まれていることをつくづく感じます。

教職員一同、子供たち一人一人が、朝でも昼でも帰りでも、あいさつを響かせながら明るい毎日をごしてほしいと願い関わっています。ご家庭・地域でも「素直な明るい元気な子」を話題とし育てただけなら幸いです。

【お願い】

明日からゴールデンウィークに入ります。二つご配慮いただきたいことがあります。一つは、「川遊び」です。川や海での事故はいつ・どのように起こるか分かりません。大事なことは、「事前の注意と準備」です。これから暑くなる日も多くなります。どうかアンテナを高く張っていただき、「いのちを守る行動」を共に徹底していきましょう。本日「川遊びのやくそくについて」を、ホームページに「新着」しました。お子様と一緒にご確認をお願いします。

二つには、「熱中症対策」として「帽子をかぶる」ということです。これは習慣化することが大事です。繰り返しお声かけください。自分の身は自分で守れる子に成長しますように。

